

作者の気持ちや情景などが31文字に凝縮され、日本語の美しさが味わえる、短歌。自然や日常の一コマ、恋愛や旅、悩んでいることなど、短歌にはさまざまな題材が詠まれています。身の回りのことにアンテナを張ってみると、自然豊かで農畜水産物に恵まれ、歴史と文化が息吹く大崎町での暮らしに彩りが増すかもしれません。短歌は、ペンと紙、あるいはスマートフォンがあれば、今すぐ始められます。まずは、ルールや評価などにとらわれ過ぎず、自分の気持ちや見た景色、日常を歌にして短歌を楽しんでみませんか。

### 短歌を作る手順

大崎・新春に挑戦!

- ① 題材を決める
- ② 短歌に乗せたい気持ちを意識する
- ③ 五・七・五・七・七に乗せて、言葉を選ぶ
- ④ 後から見直して推敲し、言い回しや単語を入れ替える
- ⑤ 全体を読み返して、リズムカルか、状況が思い浮かぶのか、気持ちが表現できているのかを確認する

### 基本的なルール

#### ● 五・七・五・七・七の5句、31音で構成する

五音と七音が採用されているのは、日本語で表現するのに耳馴染みがよく、語呂がいいからとされています。

#### ● 字数より音で数える

小さい「っ」(促音)や「ん」(撥音)などは前の字と結びついて発音されるので、一字ではなく一音として数えます。

#### ● 字余り、字足らずも表現のひとつ

五・七・五・七・七で表すという大前提がありますが、一字はみ出てもこの言葉がしくりくるといときは、字余りでもよいとされています。字余りや字足らずを効果的に使うことで、短歌の魅力が増すこともあります。

#### ● 季語は必ずしも必要ではない

俳句には必ず季語を使いますが、短歌には必須ではありません。

#### ● 口語、文語、仮名づかいなど言葉づかいは自由

まずは、自分が普段使っている言葉や言い回しで詠んでみましょう。

この他にもルールがありますが、難しく考えずに、平易な言葉で自分の中で言葉遊びとして楽しんでみてはいかがでしょうか。

12月歌会の様子

